からの提案等もいただき、共に協議を重ねながら学校の有効活用を進めていく。

Q A 6

問 消防団員の待機場所の安全性を問う

答 対応を検討する

▽**上池如夫議員**

災害時、東土居地区住民の避難場所は、豊永公民館と旧大豊小学校の2カ所とされている。西豊永集会所との複合施設である豊永消防屯所は、消防団の待機場所となっているが、早明浦ダム放流時には吉野川、南小川の水位上昇により大量の水が消防屯所直下に迫る状態である。

今後の大雨や地震等の災害時に消防団員の待機場所として適切な建物か。

▽**岩﨑憲郎町長**

長期的な視野にたって対応を検討する。

消防団豊永分団豊永部屯所

Q A 7

問 地域おこし協力隊・集落支援員の現状は

答 協力隊4名　支援員8名が活動中

重森一宗　議員

地方の若者が都市に集中、地方では急激な過疎高齢化が進んでいる。そこで国は「人口減少や高齢化等の進行が著しい地方に、都市から地方に若者を送り込み、地域の維持・強化、併せて結婚、妊娠、出産、育児に適した地方で、若者の定住・定着を図る。」として、地方創生を創設した。本町にも、地域おこし協力隊が来ている。新たに集落支援員も加わり活動をしているが、その期間、人数、仕事内容、給料、本町の負担等を聞く。

▽**岩﨑憲郎町長**

地域おこし協力隊の期間は3年間である。現在、（株）大豊ゆとりファームに3名（農業分野）大豊町社会福祉協議会に1名（福祉分野）の4名である。経費については、国の特別交付税対象となり、協力隊員の活動に対する報酬、住居費、社会保険料、車のリース料などが含まれている。また、集落支援員は8名で、1人あたり350万円を上限で国の支援があり、いずれも町の負担はない。

▽**重森一宗議員**

国が主催する「過疎問題懇談会」より、集落支援員制度が生まれている。町長は数年前よりこの会の委員に選ばれているが、「過疎地域等における集落対策の在り方」について、どのような意見を主張しているのか。

▽**岩﨑憲郎町長**

過疎地域の現実に目を向け、集落対策など地域のコミュニティの重要性を訴えている。

Q A 8

問 人口急減対策を問う

答 新制度に期待する

▽**重森一宗議員**

全国の地域おこし協力隊員数は4，830人だが、そのほとんどが3年の期間を区切りに、次の市町村に移転をしている。この現状を踏まえ、国会議員の人口急減対策議員連盟が「地域づくり人材活用推進事業協同組合」を言われているが、その中身は。

▽**岩﨑憲郎町長**

年間を通して仕事を確保し、その確保した仕事に基づいて安定した雇用条件のもと組合（4以上の団体が組織する組合が必要）が人を雇用する。そしてその組合に対して一定の財政支援をすることが制度の内容であるが、細部についてはまだ把握してないのが現状である。

Q A 9

問 森林経営管理法、森林環境譲与税を問う

答 来年度当初予算で提案

▽**重森一宗議員**

森林経営管理法が成立した。内容は、所有者不明の山林、所有者が管理できない、管理する意思がない山林を市町村が所有者から預かり、民間業者に委託する、あるいは市町村が管理をする。森林環境譲与税額は来年31年度4，900万円から段階的に増額され、平成45年1億6，500万円となっている。他の市町村ではこの制度での使用に不安とあったが、本町では31年度4，900万円をどのように使用するのか。

▽**岩﨑憲郎町長**

森林経営管理法や、森林環境譲与税を活用した不採算森林対策や、林業従事者の研修など、来年度当初予算で取り組みを提案する。

民有林の皆伐

Q A 10

問 草刈り機等の講習について

答 検討する

▽**重森一宗議員**

山林伐採後の植栽について、草刈り機及びチェーンソーの資格が必要となり、講習を受けているが、植栽に限らず「みんなで支える郷づくり」事業の中で、集落の清掃等に草刈機及びチェーンソーを使用している方がいる。町民の安全・健康を確保する意味で、年に1回講習を開いてはどうか。

▽**岩﨑憲郎町長**

実施が可能か確認をしていない。今後、検討する。

Q A 11

問 総合ふれあいセンターの管理・補修を問う

答 施設を上手に使っていただきたい

小笠原妙子
議員

7月の豪雨により3階、多目的ホール舞台入口の天井に雨漏りによる大きな穴が空いている。他にも数カ所雨漏りしている場所があるが、修繕の予定はあるか。

また、多目的ホールを使用の際には、床のシート張りは、高齢者にとって大変負担の大きい作業となっている。住民からもそのような声を聞くが改善策はあるか。

▽**岩﨑憲郎町長**

雨漏りの修繕については、検討中である。多目的ホールついては、一度、土足での仕様に変更し、その後、元通りの管理に戻したという経緯がある。公共施設であり、より多くの人に、より多く使っていただくためにも、施設を上手く利用していただきたいと思っている。

多目的ホール

Q A 12

問 農工センター管理全般を問う

答 町内施設の有効利用に努める

▽**小笠原妙子議員**

仮庁舎移転後の農工センターの管理は、どのようになるのか。

▽**岩﨑憲郎町長**

農工センターの管理については、庁舎移転後においても、現在と同じ利用を考えている。

▽**小笠原妙子議員**

農工センターの階段は、高齢者・障害者にとって大変きつく昇り降りに苦労されている。エレベーターを設置する等、町として今後の対応を問う。

▽**岩﨑憲郎町長**

エレベーターを設置することは技術的には可能であるが、それにもまして、総合ふれあいセンターなど、町内の施設をより有効に使用することが必要だと思っている。

大豊町農工センター